

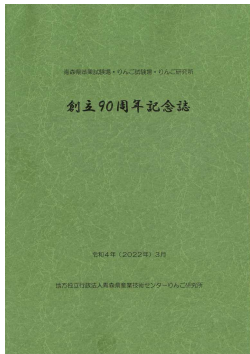
りんご研究所ニュース



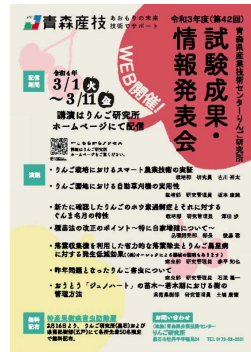
コロナ禍の中:

【創立90周年記念誌発刊】

りんご研究所の前身「青森県苹果試験場」が昭和6年に設立されてから、今年度で90年目を迎えました。新型コロナウイルスにより祝賀会の開催は断念しましたが、前回の80周年から10年間の記録として「創立90周年記念誌」を発刊しました。あと10年で100周年、その時は盛大に記念式典と祝賀会を開催したいものです。



【令和3年度(第42回)試験成果・情報発表会】



令和3年度試験成果・情報発表会は、新型コロナウイルスが県内でも再拡大していることから、会場での開催を見合わせることにし、昨年度に引き続きWEB開催とし、3月1日から11日まで期間限定で配信しました。視聴回数は延べ1200回以上と、多くの方々にご視聴いただき、ありがとうございました。来年こそはコロナも収束して、例年どおり会場で開催できることを願っています。

【新春剪定大会】

1月6日、青森県りんご協会主催の令和4年りんご新春剪定大会が2年ぶりに弘前市石川で開催されました。当日は天候に恵まれ、晴天の下約1000人(主催者発表)の生産者が集まりました。



わい性台樹では福田栽培部長が講師を務め、受け持って4年目となる樹

を分かりやすく解説しながら剪定しました。

【試験成績検討会及び試験設計会議】

1月18〜20日の3日間にわたり令和3年度試験成績検討会を、3月8〜9日の2日間、同4年度試験設計会議を当研究所会議室で開催しました。



今回は、新型コロナウイルスが依然として収束の目途がたっていないことから、県や全農あたり、りんご協会等の外部関係機関の出席はやむなく見送り、当研究所職員のみでの検討会となりました。

【りんご基幹青年・病害虫マスター修了式】

3月2日、青森県りんご協会講堂で、第32回青森県りんご産業基幹青年養成事業(2年間、12市町村57名)、並びに令和3年度りんご病害虫マスター養成事業(1年間、10市町村36名)の修了式が行われました。

修了式では、講師陣を代表し、工藤所長がお祝いの言葉を述べました。各市町村から推薦された若者が巣立っていきませんが、研修の修了はゴールでなく、スタートだという気持ちで、今後の頑張りを期待いたします。



写真提供: (公財)青森県りんご協会

【普及指導員果樹専門技術強化研修】

弘前市に適用されていた「まん延防止等重点措置」が解除された翌日の3月22日に、各地域農業普及振興室の普及指導員を対象とした果樹専門技術強化研修(剪定実技研修)が当研究所圃場で開催されました。

果樹担当の普及指導員9名が参加し、初めに福田栽培部長が15年生のわい性台樹を用いて解説を行いながら剪定の指導を行いました。その後、各普及指導員がそれぞれ担当する樹の剪定を行いました。



【研究風景】

○交配種子の播種

品種開発部では、2月に昨年の交配で得た種子を播種しました。1000粒以上の種子を写真のような小さなポットに1粒ずつ播種しています。



今後、発芽数が増えてから、若葉を使って遺伝子を調べます。この調査には、いまではニュースなどでよく聞くPCR検査を用います。その結果、特定の病気への強さや、果肉の粉質化し難さ等の特性が判明します。このようにして、果実ができるずっと前から選抜を開

始します。

選抜を進めると、理論上は1割程度の苗が残ります。その後、実際に植えて育てやすさ、果実の美味しさなど、PCR検査ではわからない特性を調べて淘汰します。そのため、品種ができる確率は5000粒の種子に1つあるか無いかとなっています。品種開発部は一日でも早く皆様に素晴らしい品種を届けられるように邁進して参ります。

○マメコバチの巣筒更新

近年、りんごの授粉に不可欠なマメコバチの数が減少しています。マメコバチの巣筒は何年も利用していると、コナダニ類やカツオブシムシ類などの天敵による被害が多くなります。

そのため、研究所内では、毎年2〜3月にマメコバチの巣筒の更新のため、筒を割って繭を取り出す作業を行っています。少なくとも3〜5年に一度は更新しましょう。



○キツネ、駆ける

県南果樹部圃場で作業しているタヌキやキジ、リスなどの野生動物と出会うことがたまにあり、たいいていは写真を撮る暇もなく立ち去ってしまうのですが、一昨年の4月、運良く姿を捉えることができました。圃場内を走り回っていたキツネを見かけてカメラを構えると、どうやら何かを見つけた様子。落ちていた果実をくわえるとこちらへ向かって駆けてきました。こちらに気が付くと方向を変えてどこかへ行ってしまいました。

運よく可愛らしい写真が撮れました。もうすぐまた4月がやってきます。今年はこの子に会えるでしょうか。



【編集後記】

今年度も新型コロナウイルスにより、各種イベントが中止や縮小を余儀なくされました。来年度こそはコロナも収束し、普通の生活に戻れることを願うばかりです。

なお、今年度のりんご研究所ニュースは、この号で終了です。ご愛読ありがとうございました。4年度も引き続きよろしくお祈りします。(K)